

国立第二小学校改築工事実施設計概要

2022（令和4）年11月

国立市教育委員会

学校づくりの理念

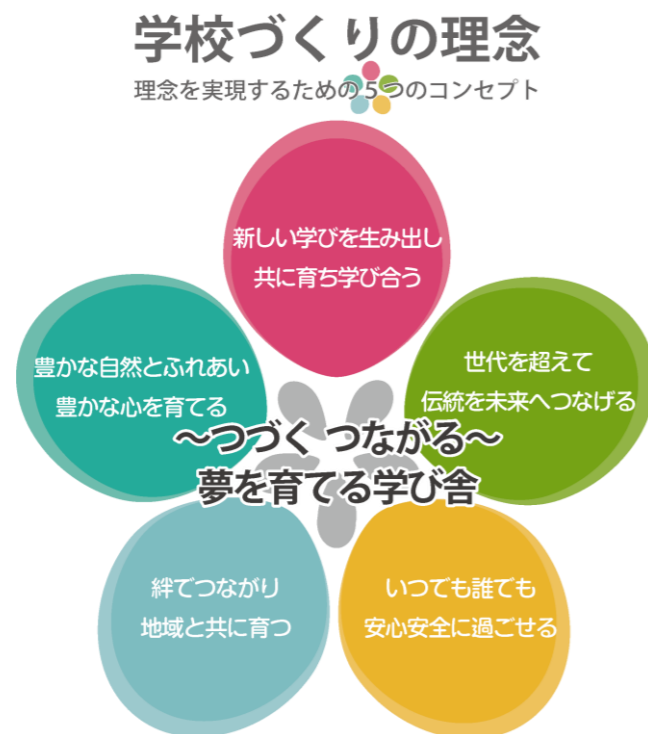
国立第二小学校の改築に当たり、国立市教育委員会では、令和元年（2019年）7月に新校舎の基本構想・基本計画として、「国立第二小学校改築マスタープラン」を策定しました。

マスタープランの検討においては、学校関係者や保護者、地域の方々との意見交換を重ね、未来の二小が目指す学校づくりの理念である「～つづく、つながる～ 夢を育てる学びの舎」と、それを実現するための5つのコンセプトを立案しました。学校づくりの理念には、「四季折々の佇まい」と「子供の幸福と成長を願う協働的な教育活動」という学校と地域が守り育てたかけがえのない財産があり、校舎の建て替えに際しても、その財産を継承したいという思いが込められています。

設計業務を進めるにあたっては、この理念とコンセプトの実現を目指して平面計画や設備計画の立案を行ってまいりました。

学校づくりの理念

「～つづく つながる～ 夢を育てる学び舎」



5つのコンセプト

1. 学びを生みだし共に育み学び合う⇒魅力的で多様性のある教育環境づくり

学年ごとの活動の場となる学年共用スペースを設置することで、クラス同士がよりつながる環境を目指します。

図書室と視聴覚室の機能を備えた「メディアセンター」を学校を中心として位置づけ、学年を超えた交流のための空間とします。

スロープ設置をはじめとした、バリアフリー化に十分に配慮した学習環境を整備し、フルインクルーシブ教育の推進を図ります。

2. 自然とふれあい豊かな心を育てる⇒既存樹木を活かした緑豊かな学校

芝生の校庭や四季のうつろいを感じられる木々など、これまでの景色を大切にし、学校のどこにいても豊かな緑が感じられ、のびやかで気持ちの良い学びの環境をつくります。

3. 世代を超えて伝統を未来へつなげる⇒シンボルツリー「二松」の保存

学校のシンボルである二本の松の大木「二松」を保存するほか、校庭には土壇を再生して、現在の二小の姿を継承します。

4. 絆を大切にし地域と共に育つ⇒コミュニティ施設と東広場を一体的に整備

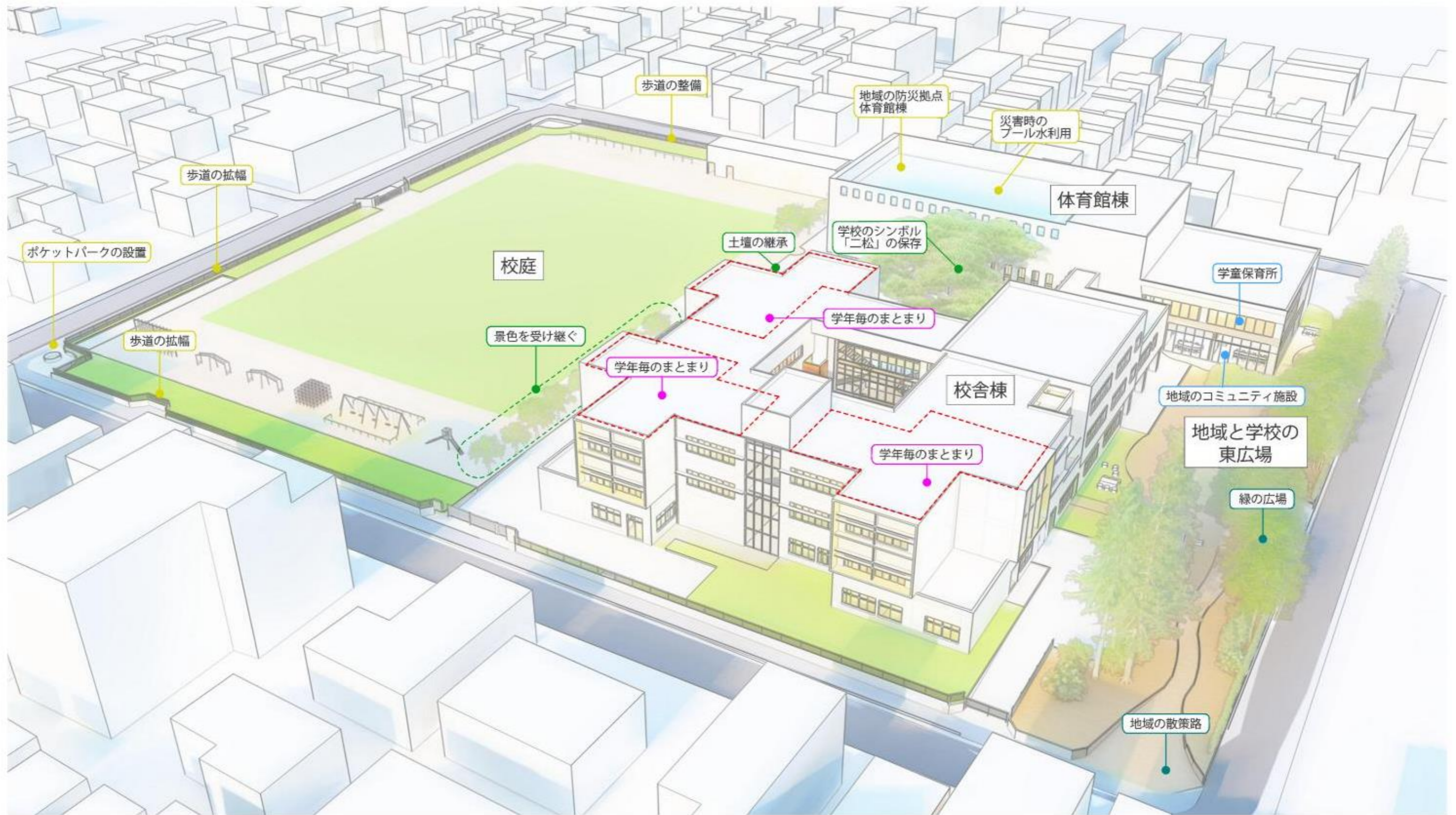
体育館棟は学童と地域のコミュニティ施設機能をもつ複合施設として整備します。敷地東側の緑地を継承し、自然豊かな広場として、日中は地域にも開放し、コミュニティ施設とあわせて乳幼児から高齢の方まで自由に集える地域の拠点とします。

5. いつでも誰でも安心安全に過ごせる⇒体育館棟を中心に避難所機能の充実

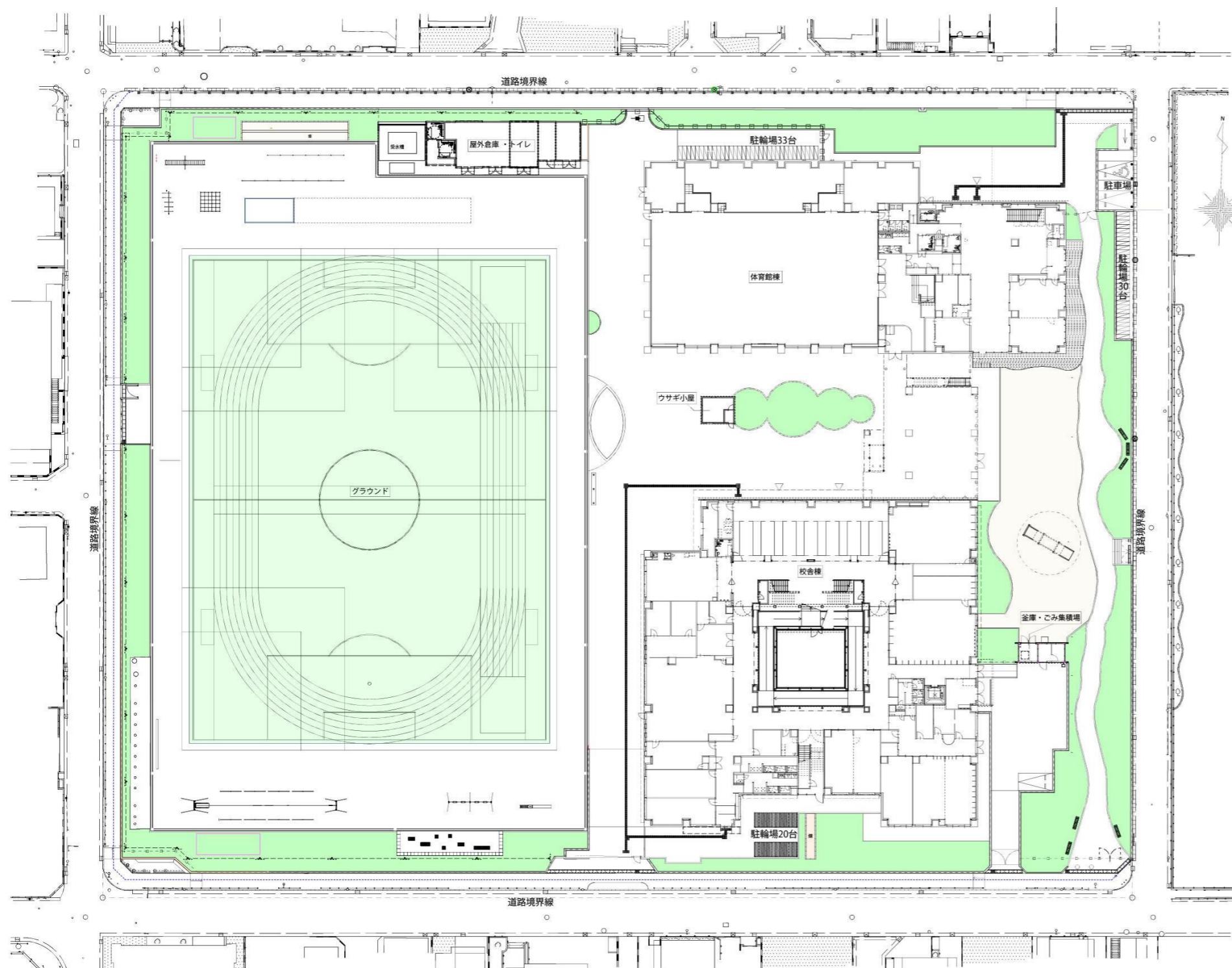
体育館棟は、備蓄倉庫や空調設備等を備えた災害時の避難所として整備します。

学校専用のエリアと地域に開放するエリアを明確に区分する計画とし、いつでも誰でも安心安全に過ごせる施設とします。

学校づくりの理念と5つのコンセプトを実現する工夫（イメージ図）



外構配置図



建築概要

所在地：国立市西二丁目13番
構造：鉄筋コンクリート造
階数：地上3階建（校舎棟）・4階建（体育館棟）
敷地面積：16,619.87 m²
延床面積：8,159.10 m²

総工費

総工費：約43億円

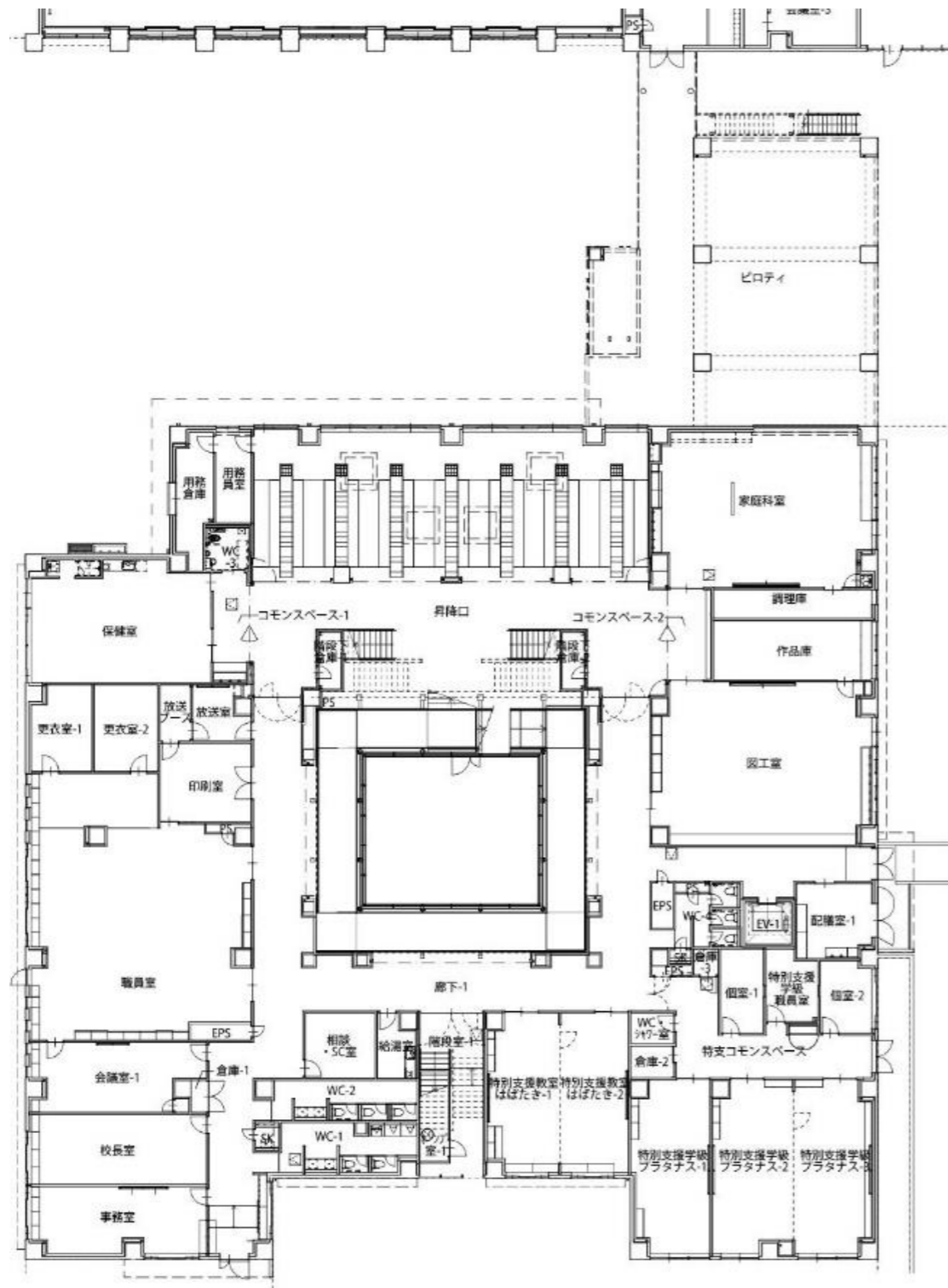


イメージパース（東側緑地）

東側緑地

敷地東側の緑地を継承し、自然豊かな広場として、日中は地域にも開放し、学校だけでなく地域のみなさまにとっての憩い・遊びの場となります。

校舎棟 1 階平面図

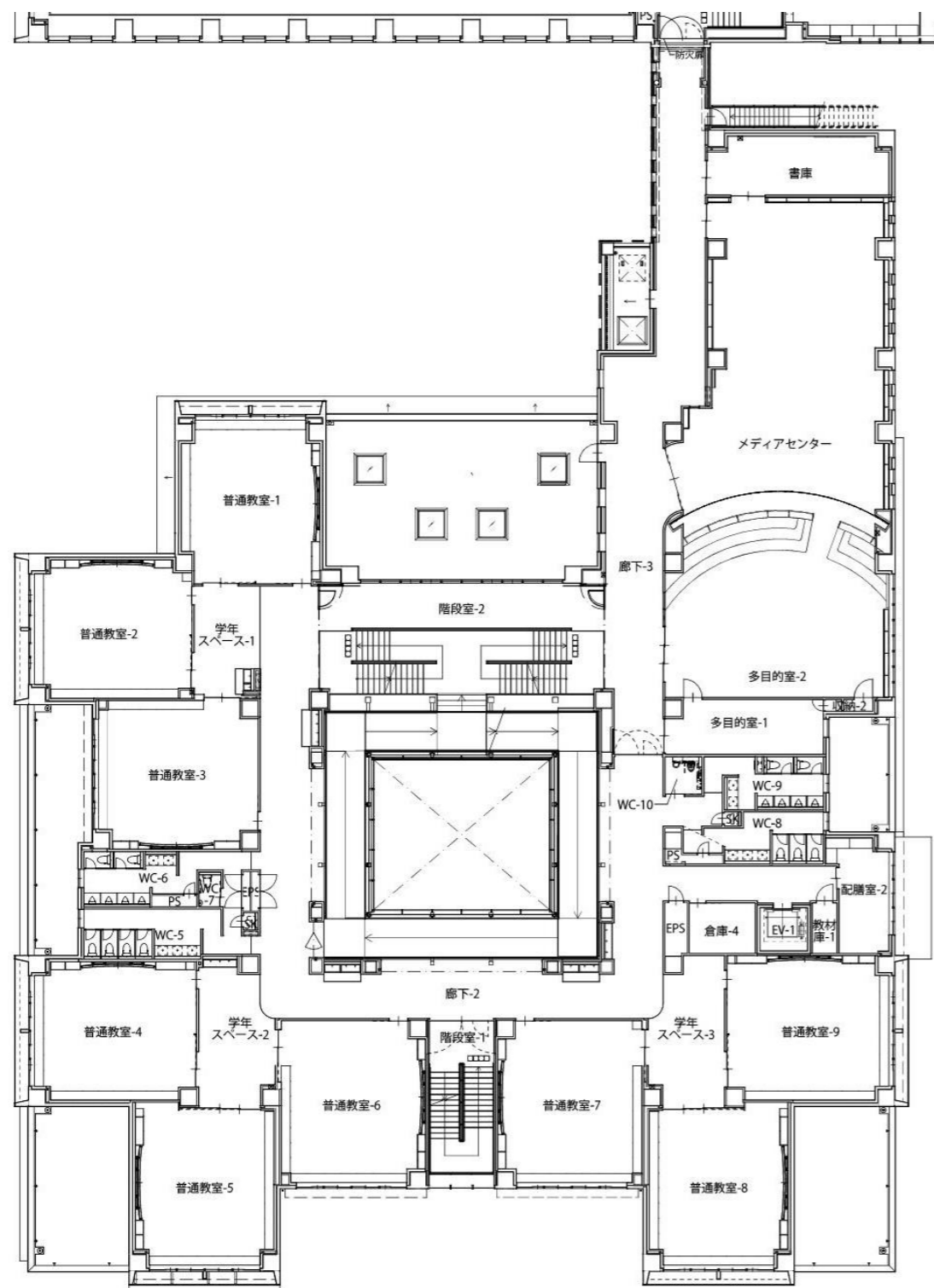


イメージパース (昇降口)

校舎棟平面計画の基本方針

校舎棟には管理諸室や普通教室、特別支援教室（はばたき）、特別支援学級（プラタナス）、特別教室等を配置します。建物は3階建てとし、中心に中庭を設けて、採光の良い屋内空間を実現します。コの字型に廊下を配置して、行き止まりがなく、コンパクトな校舎となるよう計画しています。

校舎棟 2 階平面図

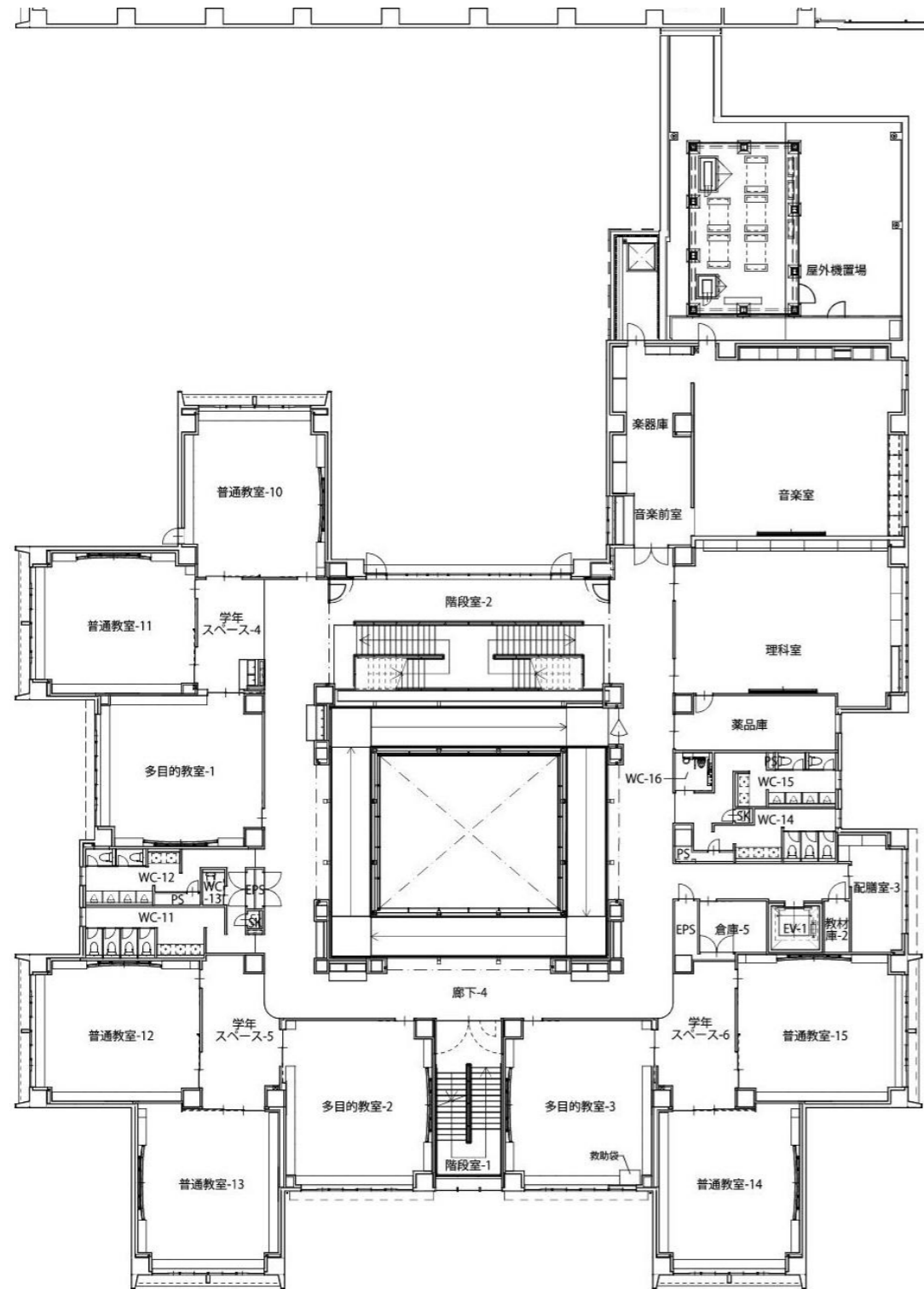


イメージパース (メディアセンター)

メディアセンター

図書室と視聴覚室の機能を備えた「メディアセンター」を学校の中心として位置づけ、子どもたちが利用しやすく、日常の学校生活の中で図書などのメディアが身近に感じられる配置・環境とし、学年を超えた交流のための空間とします。

校舎棟 3階平面図

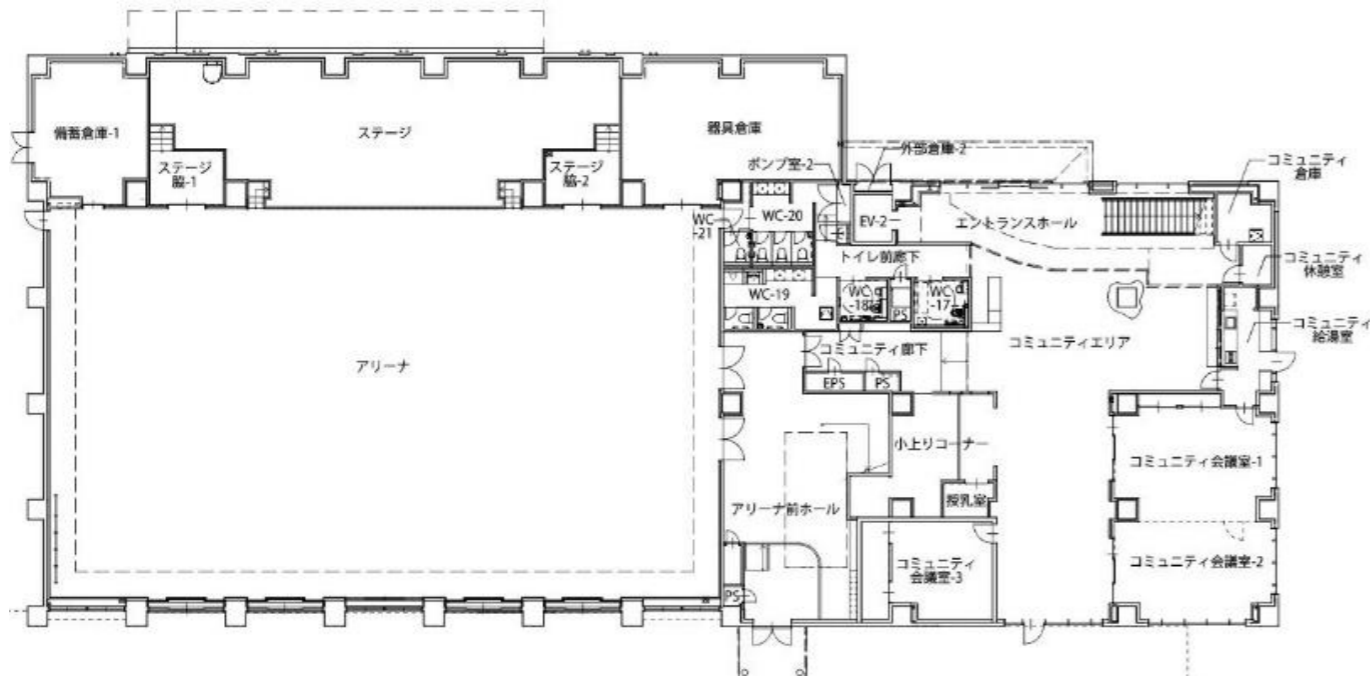


イメージパース（普通教室）

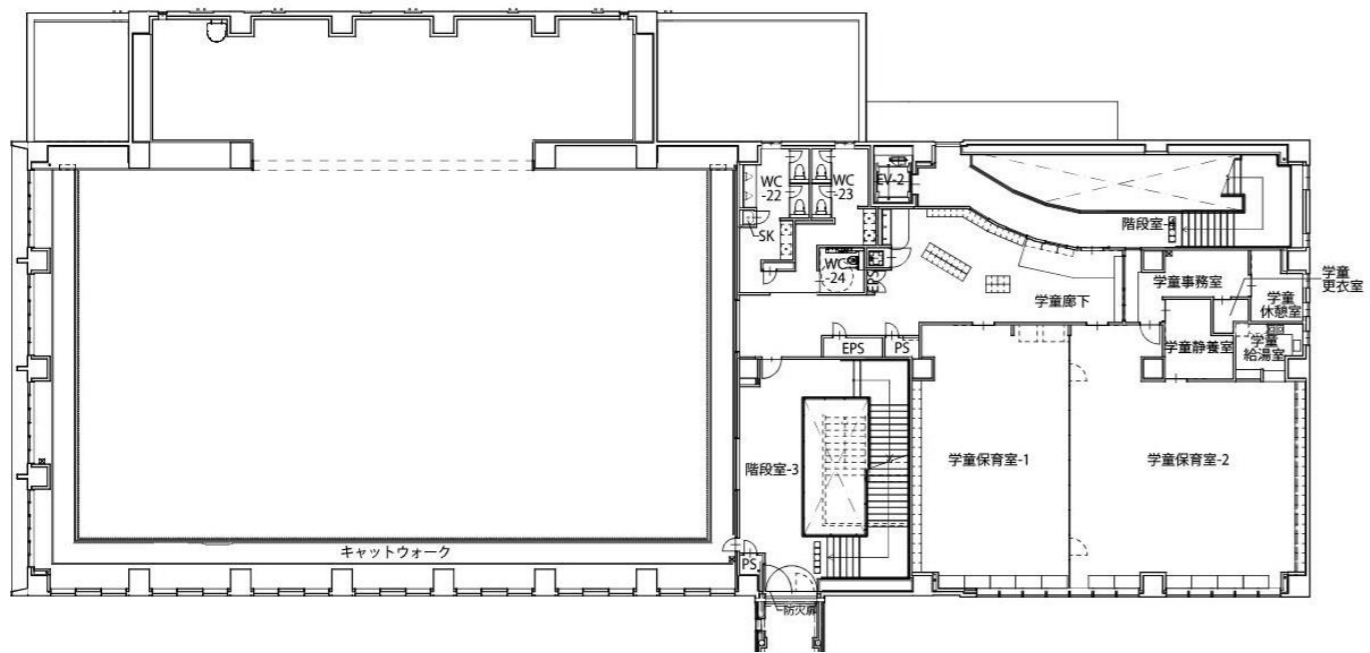
普通教室・学年スペース

普通教室については既存校舎よりも広くするとともに、学年専用の共用部を配置し、多様な学びに対応するレイアウトとします。学年専用の書棚を設置したり、様々な学年ごとの活動を行ったりすることで、クラス同士でつながり共に学ぶ機会を生みだします。

体育館棟



体育館棟 1階平面図



体育館棟 2階平面図



イメージパース (コミュニティ施設)

コミュニティ施設

コミュニティ施設は、自由に立ち寄って利用することのできるオープンスペースと乳幼児が遊べる小上がりコーナー、予約して利用する大小の貸出スペースで構成され、多世代の地域の方が気軽に利用できる場所を目指します。

学童保育所

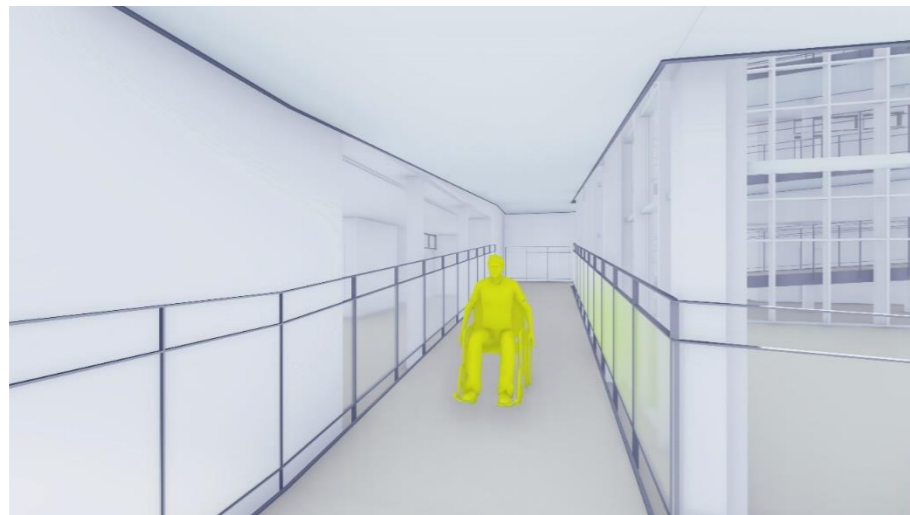
西学童保育所の機能の一部（二小児童対象）を体育館棟内に移転します。これにより、登降所時の安全性を確保すると共に、学校との連携の強化、また複合化の特性を活かした多世代交流の実現等を目指します。

フルインクルーシブ教育の推進に向けた環境整備

屋内スロープの設置

新たな国立第二小学校のバリアフリー対応として、市内のしょうがいしゃ団体よりスロープを設置してほしいとのご意見をいただきました。

教育委員会において、学校関係者及び他のしょうがいしゃ団体とも意見交換を行い、しょうがいの有無にかかわらず子どもたちが共に移動できる施設を整えることで交流が増え、会話や助け合いを通じて人と人の相互理解を深めることにより、国立市教育大綱が示す「しょうがいのある児童・生徒もしょうがいのない児童・生徒も同じ場で共に学び、相互に成長できるフルインクルーシブ教育を目指す。」という理念の推進を図るため、校舎屋内にスロープを設置することとしました。



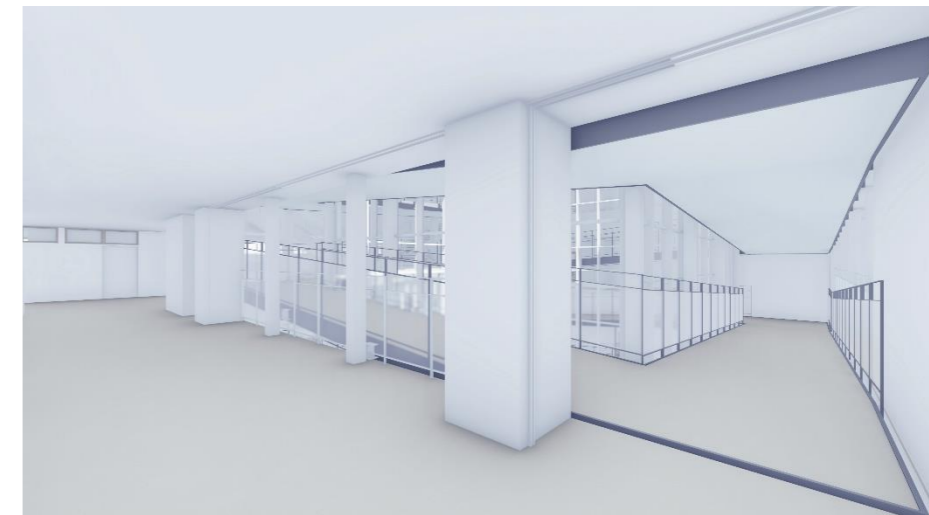
イメージパース（屋内スロープ①）



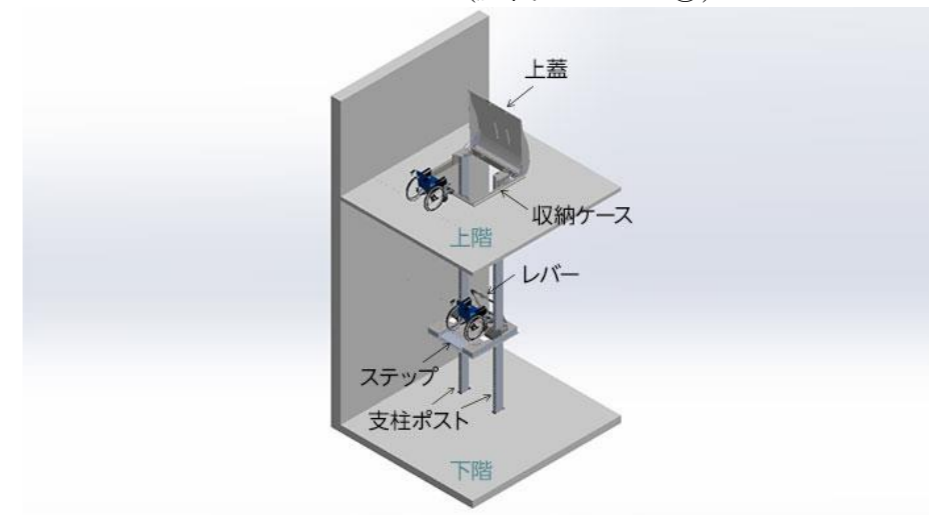
イメージパース（屋内スロープ②）

その他の主なバリアフリー対応

- ・ 降下型避難機器（車いす対応）の設置
- ・ 各階に車いす対応トイレの設置
- ・ 車いす利用者に配慮した流しの設置
- ・ エレベーターの設置
- ・ 車いす利用者に配慮し、特別教室に高さ調節可能な机を採用
- ・ 敷地内及び建物内の段差解消
- ・ 外構における点字ブロックの設置
- ・ 廊下の手すりの設置
- ・ 案内サインに点字の設置



イメージパース（屋内スロープ③）



降下型避難機器イメージ図

環境配慮・既存樹木の保存

環境配慮基本方針

イニシャルコストとランニングコストのバランスを踏まえて、建築的な工夫によって自然の力を活かした建物づくりを行います。

意匠計画

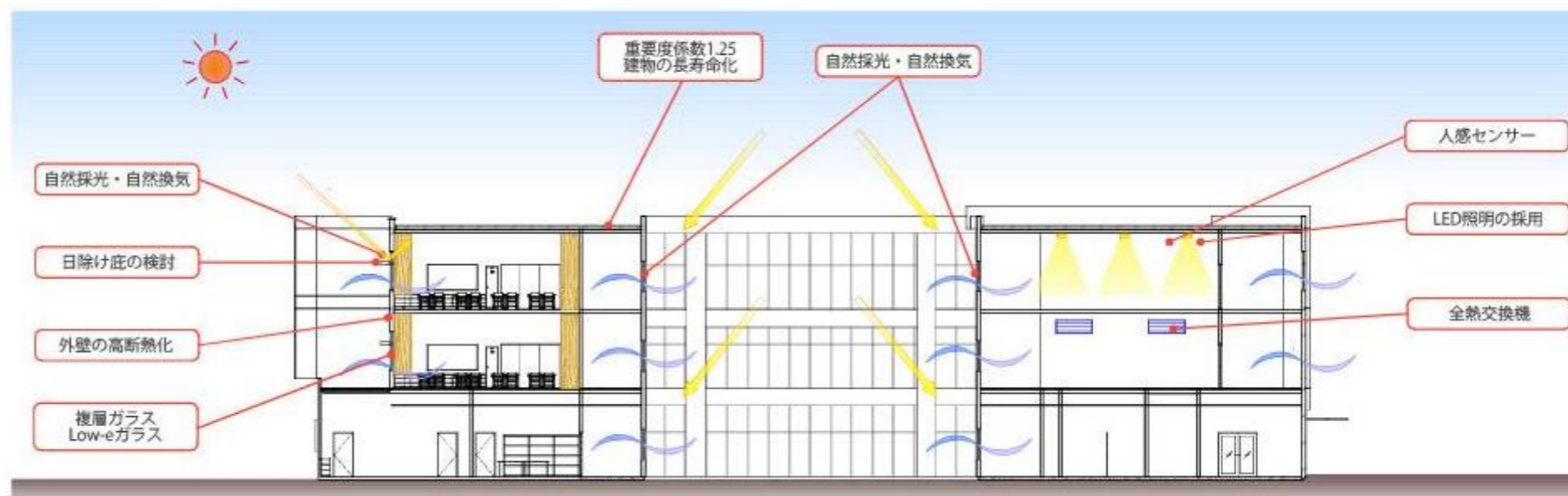
- ・日除け庇
⇒日射を抑制して照明に係る電力使用量を軽減
- ・自然採光・自然換気
⇒照明及び空調・換気に係る電力使用量を軽減
- ・外壁の高断熱化・複層ガラス・Low-e ガラス
⇒空調負荷の低減による電力使用量の軽減

電気設備計画

- ・太陽光発電設備
⇒公共建築物の整備を行う際の環境配慮事項に関する基本的な考え方をまとめた「国立市公共建築物環境配慮整備指針」に基づき導入
- ・人感センサー
⇒電力使用量の軽減
- ・LED 照明の採用
⇒電力使用量の軽減

機械設備計画

- ・自動水栓
⇒節水
- ・全熱交換機
⇒空調エネルギーの軽減、CO2 排出抑制



既存樹木の保存

緑豊かな屋外環境を生かし、総合的な観点から既存樹木を適切に保存・更新することとします。既存樹木の保存・更新等に当たっては、市の「緑の基本計画」との整合を図り、以下の取り組みを行います。

- 敷地東側に既存のサクラ、アカマツ、ヒマラヤスギ等を活かした緑道を整備
- 必要となる樹木の植樹を行う。
 - ・雑木林の再生
 - ・従前から二小に生育しているアカマツ等の雑木や接道部には当該地域に生育しているコナラ・シラカシ等を植樹
- 樹木の循環・活用
 - ・敷地東側緑道の舗装用ウッドチップとして活用
 - ・二小児童による桜の接ぎ木、芝生の継承
 - ・学校授業や製品加工での活用を検討



二小のシンボルツリー二松

工事工程計画

